

國學院大學學術情報リポジトリ

女性主人公の経済小説におけることばの性差の実態について

メタデータ	言語: Japanese 出版者: 公開日: 2025-05-23 キーワード (Ja): 経済小説, ことばの性差, 人称詞, 終助詞, 感動詞 キーワード (En): 作成者: 房, 夢丹 メールアドレス: 所属:
URL	https://doi.org/10.57529/0002001674

論 文 要 旨

学籍番号	223223	氏 名	FANG MENG DAN
論文題目： 女性主人公の経済小説におけることばの性差の実態について			
<p>(内容の要旨)</p> <p>日本語では主に男性が使う傾向が強いことばを「男性語」と呼び、主に女性が使う傾向が強いことばを「女性語」と呼ぶ。「男性語」や「女性語」に見られる日本語の男女差は、日本語を特徴づけるものの代表格として従来取り上げられてきた(水本 2005)。語彙・語法の視点から見ると、日本語の性差は主に人称詞、文末表現、感動詞、敬語などに現れている。しかしながら、以前は主に男性が使っていた表現を女性が使うようになり、日本語における性別による差は年代が下がるにつれて減少傾向にある(大谷 2015)。</p> <p>経済小説はフィクションではあるが、作者による人物設定によって、ことばの性差がより表現されやすく、現実の社会を反映し、年代が下るにつれて「男性語」と「女性語」の差異と変化が生じている。男性を中心人物とした作品では女性の登場頻度が低いが、現在は女性を主人公とする作品が多いため、効率的に多くの男女発話の用例が収集できる。</p> <p>そこで、本稿は主人公が女性である日本の経済小説を調査資料にし、人称詞、終助詞、感動詞の観点から、男女の発話におけることばの性差の使用実態を明らかにした。</p> <p>分析の結果は以下の通りである。</p> <ol style="list-style-type: none">(1) 話し手と聞き手の年齢、社会的地位で使用する人称詞、終助詞、感動詞には男女差が見られるが、業界によることばの性差があまり見られない。(2) 男女ともに使われることばについて、男性は普通体、女性は丁寧体と一緒に使うことが多い。(3) 女性専用とされる人称詞、終助詞が見られず、女性語の表現が少なくなり、男性が柔らかい表現を使う傾向が見られる。(4) 社会的地位の高い女性がやや強い男性的な表現を使うが、人称詞「ぼく」「おれ」「わし」「おまえ」「きさま」「てめえ」、終助詞「な(禁止)」「ぞ」「ぜ」、感動詞「いいや」「おや」「おやおや」「うん?」「わはは」「さて」「ほれ」「よう」「お」「ほう」「なあ」「おい」を使わず、ことばの性差が存在している。(5) 女性作家の描く男性の発話に比べて、男性作家の描く男性の方がやや丁寧な話し方をしている。(6) 年代が下がるにつれて男性は柔らかい言葉遣いとぞんざいな表現を使う傾向が見られる。			
キーワード (5 語)			
経済小説 ことばの性差 人称詞 終助詞 感動詞			